

こくたか 連携だより

2022年発行
第180号
1月号

新年のあいさつ 2

地域医療支援・連携センター長 佐藤 正通

第15回 高崎安中地域連携会議 3

経営企画室長 鈴木 和也

第1回 高崎総合医療センター 地域連携学術セミナー 4

内科系診療部長 総合診療科・内科部長
地域医療支援・連携センター長 佐藤 正通

災害対策訓練 5

救急科部長 町田 浩志 庶務係長 佐々木 祐太

診療科紹介 外科 6

外科部長 坂元 一郎

がん化学療法看護認定看護師の活動 7

がん化学療法看護認定看護師 大野 望

栄養だより 8

臨床検査科だより 9

医療機器共同利用のご案内 10

地域医療連携登録医のご紹介 11

セカンドオピニオンのご案内 12~13

外来診療担当表 14~15

院長閑話/行事などのお知らせ 16

高崎
だるま

●地域医療支援病院 ●がん診療連携拠点病院

独立行政法人国立病院機構
高崎総合医療センター



〒370-0829 群馬県高崎市高松町36

代表 (TEL) 027-322-5901

URL <https://takasaki.hosp.go.jp/>

地域医療支援・連携センター(医療機関専用ダイヤル)

(TEL) 027-322-5835

(FAX) 027-322-5925

【理念】

患者さんから信頼される病院を目指します

【基本方針】

- 常に患者さん本位の医療を心がけます
- 研鑽に励み、安全で良質な医療を提供します
- 医療連携を積極的に推進し、地域医療に貢献します
- 良き医療従事者の育成に努めます
- 臨床研究を推進します
- 健全な病院経営を行います

【看護の理念】

人間の尊厳を大切に、専門的な知識、技術を持ち、心のこもった看護を提供します

【患者さんの権利を守ります】

- 誰でも良質で安全な医療を受ける権利があります
- 患者さんの人格や価値観が尊重され、医療提供者との相互協力のもとで医療を受ける権利があります
- 病気、治療等について、十分な説明を受ける権利があります
- 他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります
- 病気等について十分な説明を受けたうえで、自分の意志で検査や治療方法を選択したり、他の医療機関を選択する権利があります
- 医療情報に関する個人のプライバシーが守られる権利があります

新年のあいさつ

高崎総合医療センター
地域医療支援・連携センター長 佐藤 正通



皆様、新年あけましておめでとうございます。
旧年中は大変お世話になりました。
今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

2021年、コロナ禍にありましても、高崎・安中地域における医療連携の重要性につきまして多大なるご理解を頂き、また多くの患者紹介をはじめとする連携事業に御参画頂きまして、誠にありがとうございました。加えて旧年は、新型コロナウイルス感染症診療におきましても、帰国者・接触者外来、地域連携発熱者外来の実践や、ワクチン接種等にご尽力頂きましたことに改めて感謝申し上げます。高崎総合医療センターでは本年におきましても引き続き、群馬県下同感染症診療、そして新型コロナウイルス感染拡大への対応として、医療者、市民向け感染予防対策の徹底と広報を今年も継続して参ります。引き続きご理解賜りますよう、お願い申し上げます。

西暦2000年を迎えて既に22年の時間が経過致しました。平和な国日本から海の外側を覗いてみれば、現在の通信技術の発達により地球上の多くの地域にみられる事象がリアルに遅滞なく認識できるようになりました。2000年程度時間を遡りますが、米国の誕生と共に全世界にあっては国家という巨大な集合体の意識といったものが、欧州を中心に人々の心の奥底に芽生えていったように感じております。日本に在っては明治維新に遡り、また民主主義に必要とされる社会的環境や民意としての熟成には、戦後まで待たなければなりませんでした。地球史上初の被曝国である日本人が全世界に向け、恒久的な平和を誓ってから70余年が経過し、平和の象徴とも捉え得る超高齢社会を迎えるにおいて、社会保障上対応すべく行政施策や社会的総意による方向の修正などが加わり、多くの人々が未来の社会像を描き、人々が困窮する社会からの回避に向け、今出来る事を一生懸命頑張っていたと記憶しております。コロナ禍の以前の時間はとても穏やかに流れていたと認識できる程に、この度の新興感染症の全世界的拡散そして感染症による健康被害は人間社会に大きなインパクトを与え、影を落としております。さらに、視野をせばめて、群馬県、そして高崎地域について考察してみるならば、この度のような甚大な事象が発生した場合にあっても、医療者に限らず、恐怖に支配され秩序を失うことはなく、多くの人々が恐怖を内に秘め、自身や自身の大切な人達だけでなく、社会といった視野で、つまり理性をもって、理性に従った行動をとれたことだと思います。この傾向は群馬県に限らず、国内の多くの地域で共有され、世界に類を見ない速度で、全人口の8割に達するまでにワクチン接種が進み、オミクロン変異株の恐怖が訪れても、過去2年間の教訓を踏まえ、個人個人が、もしくは家庭内で、更には地域社会で、とり得るべく感染拡大を抑制するための行動をとったことで証明されております。また、同感染症について、ワクチンや治療薬といった創薬に必要とされる時間は極めて短く、現在の科学技術の水準の高さには目をみはります。まだまだ、我慢の時間は続くと思います。しかし、人間は明日への希望なしに生きていく事が困難な生物でもあることを、私達医師は患者診療を通じて認識しております。「明日は今日よりも絶対良くなる」と信じて、本年も医療者として地域の人々と共に日々生きて参りましょう。今年もどうぞ宜しくお願い致します。

第15回

高崎安中地域連携会議 開催報告

経営企画室長 鈴木 和也



高崎市医師会会長 岡本 克実 先生



病院長 小川 哲史

2021年11月17日(水)、第15回高崎安中地域連携会議が、当センター会場およびオンラインでのハイブリッドにて開催されました。

本会議は高崎安中二次医療圏内の病院間連携の推進を目的に、平成24年7月から年に2回開催しており、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止したため、2019年7月以来の開催となりました。

議事内容は、当センターから連携実績および月1回開催しております高崎安中地域連携実務者会議報告をさせていただき、連携病院から地域内病院連携実績報告として、それぞれの連携実績や病院紹介についてご報告いただいております。

約2年ぶりの開催となった今回は、高崎安中二次医療圏内の医師会、病院、介護老人保健施設等から31施設・86名（医師19名、看護師14名、ソーシャルワーカー37名、理学療法士2名、作業療法士1名、言語聴覚士2名、事務職10名、支援相談員1名）の多数の皆様にご参加いただきました。ご参加いただいた皆様のご協力に感謝申し上げます。

第15回の本会議では、当センターの佐藤正通地域医療支援・連携センター長からは連携実績および高崎安中地域連携実務者会議について、柿崎臨床研究部長より当院の新型コロナウイルス感染症の診療体制・受入れ状況等についてご報告させていただきました。

また今回に限り、地域内病院連携実績報告に代え、当院の診療科紹介として、平柳神経内科部長および中村形成外科医長より、各診療科の紹介と、主に連携病院からご紹介いただいた患者さんの症例と当院での治療内容について報告させていただきました。次回は従前どおり、連携病院からの地域内病院連携実績等をご報告いただくことを予定しております。

本会議は、地域における各施設の役割について相互に理解を深め、より一層の連携推進の一助となるよう、今後も開催させていただく予定です。

当センターは医療圏内で唯一の救命救急センターを有する急性期病院です。高崎安中医療圏内において当センターがその役割を果たすためには病院や施設との連携が欠かせません。本会議へのご意見・ご要望をはじめ、当センターの連携事業について、引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



臨床研究部長 柿崎 暁



地域医療支援連携センター長 佐藤 正通



神経内科部長 平柳 公利



形成外科医長 中村 英玄

第1回

高崎総合医療センター 地域連携学術セミナーを終えて

内科系診療部長 総合診療科・内科部長
地域医療支援・連携センター長

佐藤 正通

2021年12月2日、第1回目となります高崎総合医療センター地域連携学術セミナーを、COVID-19診療をテーマとして、ハイブリッド形式で開催させて頂きました。地域の医療機関からは多くの先生にご参加頂き、盛況に開催することができませんでした。開催に際しご尽力頂きました高崎市医師会をはじめ、諸関係各位へ厚く御礼申し上げます。

この度は、現在でもヨーロッパをはじめ、世界を席卷しております新型コロナウイルス感染症につきまして、高崎地域での取り組みを私から講演させて頂きました。当センターにおきましては2020年1月より入院診療を開始しており、高崎市医師会、高崎市、そして当センターの協力により、地域連携発熱者外来を発足、運営してきた経緯、加えて当センターにおいて施行してきた院内感染予防の取り組みなどを紹介させて頂きました。そして主講演として、日本医科大学八王子医療センターから、新型コロナウイルス感染症診療について、八王子モデルを確立し、地域でご活躍されている感染症科教授平井由児先生にご講演頂いております。新型コロナウイルス感染症が社会において顕在化してくるかなり早期の段階から、八王子地域内医療機関に所属する多くの医師が何回にも渡り協議を重ね、感染拡散状況や院内感染予防についての情報や知識の共有、地域内診療役割分担の明確化と実践を堅実に積み重ね、八王子モデルとまで評される診療提供体制を構築したプロセスを講演させて頂きました。限られた地域内医療資源を有効に利用し、この度の爆発的な新興感染症拡大に対応することが叶った良質な地域連携診療モデルであると思った次第でございます。

この度はZoomを用いてのセミナーではございましたが、多くの質問やご支援の言葉を頂戴することができ、大変有意義な時間であったと感じております。現時点をもってしても、未だコロナ禍は過ぎ去ってはおりませんが、このような社会情勢の中でも診療を継続されている医師をはじめとする医療者の人々と知識だけではなく、そのマインドも共有できたことは何よりも頼もしいことだと実感致しました。これからも、地域医療を実践されている先生方に有用な情報と知見を、同セミナーを通じ、地域の医療者へ提供していければ幸いです。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



ご講演いただいた平井由児先生



院長あいさつ



座長：柿崎臨床研究部長



演者：佐藤内科系診療部長

災害対策訓練

院内災害対策訓練を開催して

庶務係長 佐々木 祐太

令和3年11月3日（水）に当院講堂にて、院内災害対策訓練を実施致しました。今年度は、コロナ禍ということもあり、参加者を当院職員のみとし、約70名の参加により講義形式で行いました。

講師は、救急科部長町田浩志先生に行っていただき、町田先生の体験談を交えながら話す姿を見ると、災害本部や災害現場の状況が頭に浮かんできて、本当に災害が発生しているのではないかと、リアルな雰囲気を感じることができました。

訓練は、8時30分に当院近隣で発生した大規模なバス事故にて約30名が負傷したという想定で行われ、患者さんの受け入れ体制構築から、現場で傷病の程度を判断し優先順位を決めるトリアージを行い、入院から治療というところまで実施致しました。最後にエアーテントの設営訓練を行いましたが、災害時迅速に組み立てられるよう、更なる訓練が必要と感じました。

今回は実際に体を動かしながらの災害訓練ではありませんでしたが、次回は新型コロナウイルス感染症も落ち着き、平常どおりの災害訓練が実施できることを祈っております。

高崎総合医療センターでは、災害時に地域住民の生命を守ることが出来るよう、今後も繰り返し災害訓練を重ねて参ります。



コロナ禍でも災害対策訓練を実施しました。

救急科部長 町田 浩志

まだまだ新型コロナウイルスの対応は続いていますが、地域の皆様の安心を守る救命救急センターとして、通常の救急対応に加えて災害対応の準備もぬかりないようにしています。当院では毎年度、大災害により多くの患者さんが病院を受診した対応を実動で訓練してきましたが、今年度はコロナ禍という状況を踏まえて机上訓練として実施しました。病院の災害対応は受診された患者さんを受入れるだけではありません。災害により病院機能が落ちている中で対応するための準備をするフェーズ（プレホスピタル期）、受診された患者さんのトリアージと初期対応を行うフェーズ（受入期）、受入れた患者さんの根本治療と入院を調整するフェーズ（根本治療期）、そして災害対応により後回しにした通常業務を回復させるフェーズ（回復期）の4つのフェーズがあり、それぞれのフェーズで発生する課題について参加者と一緒に解決しながら訓練を進めていきました。実動訓練と異なり机上訓練では参加者が病院の災害対応を俯瞰的に眺めることができ、知識の整理に加えて災害対応マニュアル改定につながる有意義な時間となりました。



外科の紹介

外科部長 坂元 一郎

当院は救急患者さんの多い急性期総合病院であり、有症状の比較的進行したがんの患者さんや、心臓や脳など他臓器の疾患を有する患者さんが多い傾向があります。外科は、消化器病センターとして消化器科と密接に協力して診療していることや、外来・病棟・手術室看護師、薬剤師、栄養士、リハビリなど多職種で患者さんを支援していることが特徴です。

近年の外科治療では、患者さんへの侵襲の軽減と回復の促進が注目されています。当院でも積極的に腹腔鏡手術を導入し、現在では大腸がんでは80%以上、胃がんでも半数が腹腔鏡手術です。治療法については、疾患の進み具合や患者さんの背景などを元にガイドラインに沿って検討しています。また回復の促進では、専門チームで疼痛対策や栄養療法、リハビリなどを標準化することや、患者サポートセンターで手術前から評価、説明を行うことで、患者さんと目標を共有し積極的に治療に臨めるよう援助しています。当院のクリニカルパス（標準的な診療計画）の入院期間は、結腸癌・胃癌で9日、直腸癌で12日です。以前は20～30日の入院、術後の食事は1週間後が当たり前でしたから、随分と早くなりました。



外科の手術件数は、10年で2倍に増加しました。近隣のみなさまのご支援とご期待に深く感謝申し上げます。外科医も8名まで増えたため、各医師の得意とする分野を活かせるよう臓器ごとにリーダーを決めています。上部消化管は岡田幸士、肝胆膵疾患は平井圭太郎、食道疾患は田中成岳、下部消化管は宮前洋平です。それぞれ認定・専門資格を取得しており、根治性と安全性のバランスを考慮した最適な治療を目指しています。

緊急手術も増加しており、昨年は手術患者さんの25%以上が緊急手術でした。重篤な患者さんでは、来院時から患者さんの安定化を図りつつの精査、診断、手術手配、病状説明と短時間で行うべきことが多数あり、また術後もICUでの全身管理など手が離せません。限られたスタッフのため、緊急の患者さんが重なった際など他院をお勧めせざるを得ないこともあります。この地域の患者さんは当院が責任を果たす、という気持ちで診療しております。

昨年来のコロナ禍で、地域の先生方とお会いできる企画が減ってしまいましたが、我々は顔の見える連携を目指しておりますので、また機会をいただければ幸いです。みなさまと力を合わせて、地域の患者さんに貢献できるよう努めてまいります。



がん化学療法看護認定看護師の活動について

がん化学療法看護認定看護師
大野 望

がん化学療法看護認定看護師は、がん薬物療法看護を得意としている看護師で、当院には3名おり、患者サポートセンターと病棟に配置されています。がんと診断された時から、治療中の患者さんだけでなく、そのご家族に対しても専門的な知識で支援させていただいています。

がん治療の進歩に伴い、がんの治療薬の開発・承認が進み、様々な薬を組み合わせたがん薬物療法が行われるようになりました。このがん薬物療法には、多くの方がイメージされる一般的な抗がん薬（殺細胞性抗がん薬）の他、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬などがあります。治療の説明を受けても理解するのは難しく、不安を感じる患者さんもあります。患者さんやご家族には、治療を受ける目的や治療の内容、副作用などを理解してもらい、納得して治療を受けていただきたいと思っています。

初めての治療、また治療を継続している中で戸惑われることもあると思います。副作用が出ていても「そういう症状が出るって書いてあったから、我慢するもんだと思ってた」と訴える患者さんもあります。私たちはいろいろな職種のスタッフと情報共有を図りながら、チームで患者さん・ご家族の不安、困りごとに対処しています。

当院で治療中に困ったことがあれば、是非医師や看護師、薬剤師、栄養士やリハビリスタッフなど、近くの医療者に伝えてください。相談を受けた医療者が対処法を一緒に考えたり、私たちががんに関係する専門・認定看護師に相談がつながります。

また当院は地域がん診療連携拠点病院となっており、がん相談支援センター（患者サポートセンター）では院内外からのがん相談を受けています。がんの専門相談員（看護師やソーシャルワーカー）がおりますので、どこに相談したらいいのかわからない方がいらっしゃいましたら、患者サポートセンター窓口にお声掛けください。電話での相談も受け付けております。

一人で悩まず、
まずは相談してみませんか？



独立行政法人 国立病院機構
高崎総合医療センター

がん相談支援センター

病気や治療、生活に対する不安など、お気軽にご相談ください。
当院通院中の患者さん・ご家族以外の方でもご相談いただけます。

例えばこんなとき…

- 今後の検査や治療、副作用のこと
- 介護保険や在宅ケア、療養生活に関すること
- セカンドオピニオンについて
- 緩和ケアに関する情報
- 仕事との両立はどうしたら良いか
- 禁煙に関すること
- ゲノム医療
- 妊育性について
- 医療者や家族とのかわりについて

など
専門の相談員（看護師、ソーシャルワーカー）がお話を伺います。

相談窓口

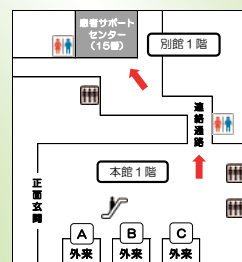
別館1階
患者サポートセンター（15番）

電話相談

027-322-5017（直通）
「がん相談希望」とお伝えください。

受付時間

平日 8:30～17:15





認知症は、脳の病気や障害など様々な

原因により、認知機能が低下し、日常生活全般に支障がでます。

認知症の中で最も多い「アルツハイマー型認知症」は、脳神経が変性して脳の一部が萎縮していく過程で起きる認知症です。次に多い「血管性認知症」は脳梗塞や脳出血などの脳血管障害によって起きる認知症です。

公益財団法人 認知症予防財団は
「認知症予防の10カ条」を提唱しています。

① 塩分と動物性脂肪を控えた
バランスのよい食事を

② 適度に運動を行い
足腰を丈夫に

③ 深酒とタバコはやめて
規則正しい生活を

④ 生活習慣病（高血圧、肥満など）の
予防・早期発見・治療を



⑤ 転倒に気をつけよう
頭の打撲は認知症招く

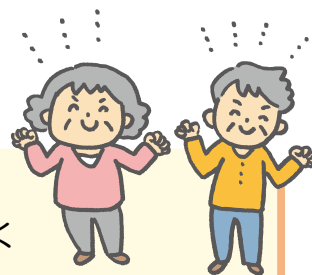
⑥ 興味と好奇心をもつように

⑦ 考えをまとめて表現する習慣を

⑧ こまやかな気配りをしたよい付き合いを

⑨ いつも若々しくおしゃれ心を忘れずに

⑩ くよくよしないで明るい気分で生活を



食事に関連する部分は①と③と④です。これらは動脈硬化予防に繋がります。

動脈硬化を予防することは、脳血管障害、血管性認知症の予防にもなります。

日頃から主食・主菜・副菜を揃えたバランスのよい食事を心がけるようにしましょう。

また 食生活では以下のポイントにも気をつけてみてください。

① よく噛んで食べる

よく噛み、脳の働きを活性化させましょう。

② 脳の血流をよくする

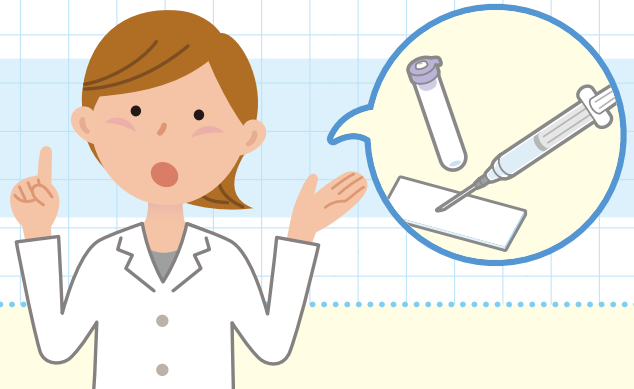
脳内の血流が悪くなると脳血管疾患のリスクが高まります。
サンマ、イワシ、サバ等の青背魚に含まれる不飽和脂肪酸の
DHAやEPAは血栓予防が期待できます。

③ 抗酸化作用のある食品の摂取

新鮮な緑黄色野菜や果物に豊富に含まれるビタミンCや、
青背魚に含まれるDHAやEPA、鮭等の魚介類に含まれる赤い色素の
アスタキサンチン等は抗酸化作用があり、認知症の予防が期待できるといわれています。



前回に引き続き細胞診の検体採取方法について説明します。



◆材料別の処理方法と病理検査室への提出方法

▶喀痰

喀痰の場合、その検体の性状が唾液性の検体では検査に適しません。膿性や血性部分が多く含まれる喀痰が検査に適しています。細胞診用の喀痰を自宅で採取される場合は、病院にお持ちになるまでは冷蔵庫に保存します。また、検査は3日間連続で行います。理由は、癌が疑われる場合に1回のみの検査ではがん細胞を発見しにくいいため、3回続けて検査を行うことが推奨されているからです。

▶胸水・腹水

胸水や腹水の体液中にも周囲の臓器から剥がれ落ちる細胞が含まれるため、これを遠心して検査します。検体採取後はすみやかに検体を提出していただくことが必要となります。

▶婦人科

婦人科検体は子宮頸部、子宮体部よりブラシ等で細胞を採取します。採取した細胞はただちにスライドガラスに塗ります(直接塗抹)。その場合、塗りかたによって塗抹量が多かったり、少なかったりと施行者によって不均一になることが有ります。塗抹量が多すぎても、少なすぎても診断精度が下がります。このような影響を回避する方策としては、液状化細胞診という方法があり、当院はこの方法を採用しています。この方法は検体を採取したあとにスライドガラスに塗るのではなく、専用の液体内にブラシごと入れ、その中に細胞を落とします。その検体をLBC標本作製装置(図1)にセットし均一に塗抹した標本作製します。



図1. LBC標本作製装置

★液状化細胞診(liquid based cytology)

綿棒やブラシで採取した細胞を専用の固定液の入ったバイアルに入れ(図2)、これをLBC標本作製装置にセットし固定液を攪拌、細胞を均一にスライドガラスに塗抹します。これにより標本の観察がしやすく診断精度の向上にも役立っています。また、当院の装置はバイアルのバーコードを読み取って、患者IDをスライドガラスに印字する機能が備わっているため、人的ミスによる患者さんの取り違い等も防いでいます。その他に残った液体から遺伝子検査等の応用が可能です。



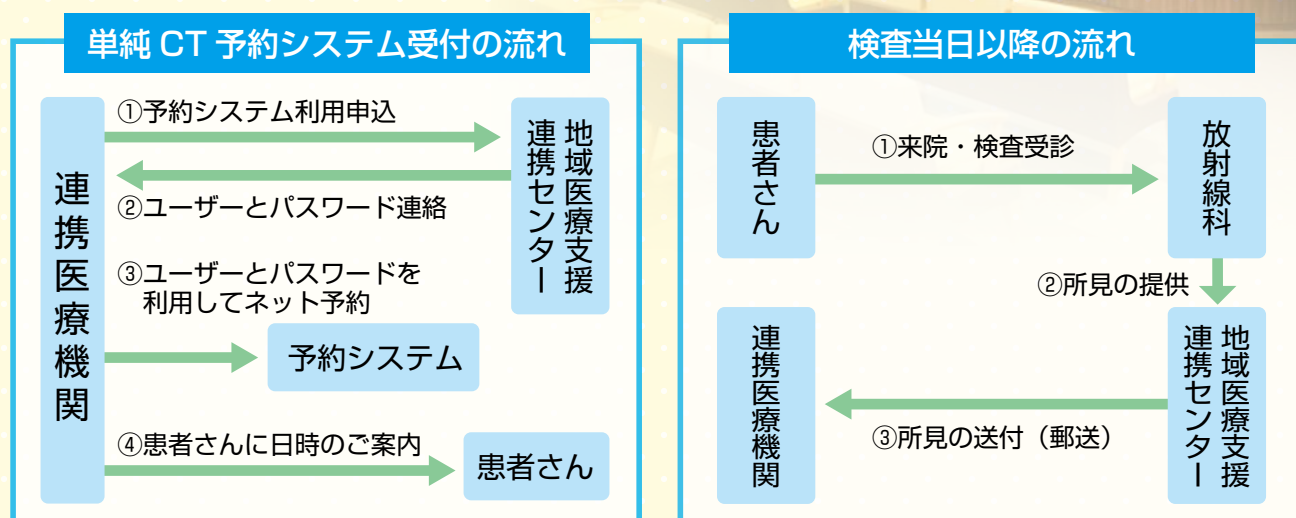
図2. LBCバイアル、フィルター、専用スライドガラス

医療機器共同利用のご案内

当センターで保有しております医療機器を、地域の医療機関の先生方もご利用いただけます。患者さんの診療および治療にお役立てください。

オンライン予約について

高崎総合医療センターでは、オンラインにて単純CT予約を行っております。オンライン予約システムは、予約時にお電話いただく必要がなく、リアルタイムでCTの日程が確認でき、スムーズに単純CTの予約をお取りいただく事が可能となっております。インターネットが使用できる環境があれば、“**無料**”でご利用になれますのでご活用ください。



1. “単純撮影（読影レポート付き）”のみ対応しております。
（造影CT撮影をご希望の方は、従来どおり画像診断科へご紹介ください。）
2. 画像データ及び読影レポートのお引渡しは、全て郵送にて対応させていただきます。
3. 翌日以降の予約のみお取り扱いになれます。
4. 患者さんは保険証を持参し1番受付地域連携窓口にお越しいただくようお願いいたします。
FAXも併用いたします。

ログインに失敗した場合ロックがかかります。その場合は、高崎総合医療センター 地域医療支援センターにお電話ください。

※植え込み型除細動器（ICD、CRT-D）挿入者は本体・リード部分の撮影は出来ませんのでご注意ください。

利用申し込み方法

このサービスは高崎総合医療センター連携の全医療機関専用となっておりますご利用には**事前登録**が必要です。ご希望の方は高崎総合医療センター地域医療支援連携センターにお問い合せください。

TEL 027-322-5835

FAX 027-322-5925

地域医療連携登録医 のご紹介

地域医療連携登録医の皆さまと
パートナーシップを組んで診療に取り組んでいます。

くらがのファミリークリニック

院長あいさつ

父の開業した大山小児科医院を受け継ぎました。
内科医として、長年狭心症や心筋梗塞等の診断治療
を行い、近年は父の指導のもと、小児の診察・治療も
行っています。

健康に何か不安があるとき、一番最初にかかるお医
者さんを目指しています。



くらがのファミリークリニック
院長
大山 啓太

診療科・病院案内

内科・循環器内科・小児科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前(9:00~12:30)	●	●	●	●	●	●	△
午後(15:00~19:00)	●	●	●	●	●	△	△

群馬県高崎市倉賀野町2044-1 TEL:027-346-0880

地域に密着し、子供から大人までの皆様に対応しています。感染症
の疑いのある方は、入口からエリアを完全に分けています。また、定
期予防接種、健康づくり健診等は予約なしで受け付けています。



小泉医院

当院紹介

- 内 科：**高血圧症、脂質異常症、糖尿病他、内科疾患全般を診察します。
・糖尿病の血糖値、HbA1cは当日検査して3分で結果をお知らせ
できます。
・経鼻内視鏡で胃カメラ（当日の朝または昼、食事を抜いて来て
いただければ検査を致します）【月・火・木・金・土（AM）】・
気管支喘息診断
・禁煙外来・骨密度検査・血管年齢・肺機能・各種健診、検診

小児科：小児科全般のプライマリケア

- ・生後2か月からのワクチンデビュー、同時接種可。

婦人科：妊婦健診、更年期障害、月経困難、ピル処方、子宮頸がん検診

皮膚科：ニキビ、皮膚炎、やけど

泌尿器科：過活動膀胱、神経因性 膀胱、膀胱炎、前立腺 がん検診

心療内科：不眠、神経症、うつ

訪問診療、訪問看護の必要な方、
ご相談ください。



小泉医院
院長
小泉 幸彦

病院案内

内科・小児科・婦人科・皮膚科 泌尿器科・心療内科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前(8:30~12:30)	●	○	○	○	●	●	△
午後(16:00~19:00)	●	●	△	●	●	※	△

◎のスケジュールは婦人科健診があります

※土曜午後は14:00~17:00となります

群馬県富岡市富岡891 TEL:0274-62-0039

セカンドオピニオンのご案内

当センターではセカンドオピニオン外来を
実施しております。
概要につきましては以下のとおりです。



対象患者さん

- 現在当センター以外の医療機関で診療を受けている患者さん、ご家族
- 現在の主治医（他医療機関）の診断及び治療方針について、当センター医師に参考意見を求め、患者さんご本人が自らの疾患をより理解し適切な診療を選択する等の為に、セカンドオピニオン外来の活用を望む方
- 主治医（他医療機関）からセカンドオピニオンを目的とした紹介状及びフィルム等の検査資料を当院に提供可能な患者さん、ご家族であることを要します（主治医にセカンドオピニオンを受けるための紹介状等をお願いすれば対応してもらえます）
- 相談者をご家族の場合は、原則として患者さんの同意を得た場合といたします

実施診療科

【各科の専門医が対応いたします】

内科、精神科、呼吸器内科、消化器内科、心臓血管内科、小児科、外科
乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、脳神経外科、呼吸器外科、産婦人科
泌尿器科、眼科、放射線診断科、放射線治療科、歯科口腔外科



予約方法

完全予約制 代表電話：027-322-5901

※代表にお電話を頂き、『セカンドオピニオン係』とお申し付け下さい

【受付時間】 月曜～金曜 8時30分～17時の間

※精神科の受付時間は 月曜～金曜 8時30分～12時迄 となります

※事前にご予約電話を受け付け、担当専門医と日程調整を行った後に折り返し
当センターより連絡させていただきます

外来時間

セカンドオピニオン外来時間（診療科によって曜日は異なります）

月曜～金曜 13時30分から15時30分の間で調整

費用

30分以内 5,500円（消費税込み）

30分以上 11,000円（消費税込み）

セカンドオピニオンとは

セカンドオピニオンとは現在の自分の病状や治療方針について他の医師の意見を求めることをいいます。医療が進歩してさまざまな治療法が生まれています。

その結果、医師によって病気に対する考え方が違うことや、病院によって医療技術や診療の質に差があることも考えられます。治療法について具体的な比較ができ、より適した治療法を患者さん自身が選択することができます。

当センターでは、よりよい治療法を患者さん自身が選択できるように、セカンドオピニオンを積極的にお勧めしております。

セカンドオピニオン 外来担当表

科 名	医師名	専 門	曜 日
内 科	佐 藤 正 通	内科全般、血液内科	火
精 神 科	井 田 逸 朗	がんのメンタルヘルス	木
呼 吸 器 内 科	中 川 純 一	呼吸器全般	火、金
消 化 器 内 科	長 沼 篤	消化器病一般、肝臓病	随時
	増 田 智 之	食道、胃、大腸	
心 臓 血 管 内 科	広 井 知 歳	狭心症・心筋梗塞の治療（カテーテル治療）	金
	太 田 昌 樹	不整脈一般	水
	福 田 延 昭	心不全、弁膜症	木
小 児 科	五十嵐 恒雄	小児科全般・未熟児・新生児	水
外 科	坂 元 一 郎	消化器外科全般	水
乳 腺・内 分 泌 外 科	鯉 淵 幸 生	乳がん全般・甲状腺外科	第1・3・5週 金（午前）
	高 他 大 輔	乳がん全般・甲状腺外科	随時
心 臓 血 管 外 科	小 谷 野 哲 也	心臓血管の外科治療	火、木、金
呼 吸 器 外 科	伊 部 崇 史	肺がん、縦郭腫瘍、呼吸器外科全般	木
	高 坂 貴 行	肺がん、縦郭腫瘍、呼吸器外科全般	火
脳 神 経 外 科	田 中 志 岳	脳腫瘍	月
	笹 口 修 男	水頭症、脳外科一般	木
	佐 藤 晃 之	血管障害	金
産 婦 人 科	伊 藤 郁 朗	婦人科腫瘍	月、火、金
泌 尿 器 科	井 上 雅 晴	泌尿器科全般	火
眼 科	土 屋 明	眼科全般（眼腫瘍を除く）	水、木
放 射 線 診 断 科	根 岸 幾	画像診断CT・MR中心	木
	佐 藤 洋 一	画像診断CT・MR中心	火
放 射 線 治 療 科	永 島 潤	悪性疾患の放射線治療	
歯 科 口 腔 外 科	稲 川 元 明	口腔顔面痛	火、水、木、金
	薬 師 寺 孝	口腔外科全般、顎変形症、インプラント	月、火、木、金

外来診療担当表

当センターは、地域医療支援病院として運営しております。
かかりつけ医の先生からの紹介状をご持参願います。

	月	火	水	木	金
総合診療科・内科	佐藤 正 通 飯塚 堯	佐藤 正 通 飯塚 堯 予約のみ 午前	木村 彰 仁 (真下 大 和) 午前 予約のみ	佐藤 正 通 飯塚 堯 (合田 史) 午後・予約専門外来	佐藤 正 通 木村 彰 仁 午前
栄養食事指導外来		佐藤 正 通 午後			
内分泌代謝内科	渋沢 信 行	須江 麻 衣 (植原 正 也) 午前	須江 麻 衣 伊藤 大 貴 午前	渋沢 信 行 午後	渋沢 信 行 伊藤 大 貴 午前
神経内科	(池田 雅 美)	平柳 公 利	菊池 雄太郎	丸山 琴 音 (古田 夏 海) 午前 午後・新患外来	清水 一 輝
呼吸器内科	中川 純 一 若松 郁 生 午前	細野 達 也 内田 恵 午前	増渕 裕 朗 田口 浩 平 午前	中川 純 一 増渕 裕 朗 午前	細野 達 也 内田 恵 午前
消化器内科	長沼 篤 安岡 秀 敏 上原 早 苗 都丸 翔 太 (石原 弘) 午後	星野 崇 鈴木 悠 平 佐野 希 望 都丸 翔 太 午前	柿崎 暁 安岡 秀 敏 増田 智 之 成清 弘 明 (石原 弘) 午後	長沼 篤 増田 智 之 鈴木 悠 平 (工藤 智 洋) 午後・第3週以外	星野 崇 佐野 希 望 田村 優 樹 (岡野 祐 大) 午後
上部内視鏡検査	星野／増田／岡野	安岡／増田	上原／佐野	上原／佐野／都丸	長沼／鈴木／岡野
心臓血管内科 (循環器)	太田 昌 樹 村田 智 行 大駒 直 也 午前：通常／午後：不整脈外来 第1、3週午前	小林 洋 明 高橋 伸 弥 (金澤 紀 雄) 午前 再来	広井 知 歳 太田 昌 樹 羽鳥 直 樹 午後：不整脈外来 午前	福田 延 昭 柴田 悟 奥野 彩 花 (金澤 紀 雄) 午前 第2、4週午前 再来	小林 紘 生 太田 昌 樹 久野 貴 弘 午前：通常／午後：不整脈外来 第2、4週午後：ペースメーカー外来 午前
新患外来(午前)	高橋 伸 弥	久野 貴 弘	村田 智 行	羽鳥 直 樹	小林 洋 明
精神科	井田 逸 朗 山崎 雄 高 午前	井田 逸 朗 山崎 雄 高 午前	井田 逸 朗 山崎 雄 高 午前	井田 逸 朗 山崎 雄 高 午前	井田 逸 朗 山崎 雄 高 午前
小児科	五十嵐 恒 雄 内田 亨 木村 有 希 午後	五十嵐 恒 雄 倉田 加奈子 諸田 潤一郎 (神尾 綾 乃) 午後第1、2、5週のみ 第4週午後	五十嵐 恒 雄 倉田 加奈子 佐藤 幸一郎 (滝沢 琢 己) 午後 第2、4週午後 <乳児健診> 午前	倉田 加奈子 西澤 拓 哉 田端 洋 太 (岩脇 史 郎) 午前 午後	五十嵐 恒 雄 佐藤 幸一郎
小児外科		(西 明・高澤慎也) 第4週午後	(西 明・高澤慎也) 第1週午後		
外科 (消化器)	坂元 一 郎 田中 成 岳 午前：通常／午後：肝胆脾専門外来 午前：通常／午後：食道専門外来	小川 哲 史 成澤 英 司	田中 寛 岡田 幸 士 午前：通常／午後：肝胆脾専門外来 午前：通常／午後：上部消化管専門外来	小川 哲 史 平井 圭太郎 小川 哲 史 小川 哲 史 午前 小川 祐介(栄養士) 午後	宮前 洋 平 星野 万里江 午前：通常／午後：下部消化管専門外来 午前：通常／午後：下部消化管専門外来
栄養サポート外来					
禁煙外来					
ストーマ外来			第2、4週午後・予約	第1、3、5週午後・予約	

1 外来診療受付時間

8:30～11:00迄 (予約の場合は最終予約時間まで)

※再来受付機は8:00から受付しています

- 紹介状をお持ちの方、紹介事前予約の方は、1番：紹介状をお持ちの方・地域医療連携窓口で受け付けております。
- 当センター受診にはかかりつけ医の先生からの紹介状をご持参ください。紹介状をお持ちでない方は、診察をお受けできない場合や、長時間お待ちいただく場合がございます。
- 受診時にはお薬手帳、薬剤情報提供書または飲んでいるお薬をご持参ください。

2 休診日

土、日、祝日、年末年始

- 学会等により、休診または医師が交替する場合があります。院内掲示をご覧ください。



地域医療支援・
連携センターから
地域の先生へお願い

当センターへの紹介の際は、
地域医療支援・連携センターを通した
事前予約にご協力下さい。

	月	火	水	木	金
泌尿器科	井上雅晴	栗原聰太	(青木雅典) 午前	井上雅晴	栗原聰太
疼痛緩和内科	田中俊行	田中俊行	田中俊行	田中俊行	田中俊行
乳腺・内分泌外科	鯉淵幸生 午前	鯉淵幸生	鯉淵幸生	(荻野美里) 第2, 4週午後	高他大輔 午前
	徳田尚子 午前	高他大輔 午前	高他大輔	(中澤祐子) 第1, 3, 5週午後	徳田尚子 第1, 3, 5週午前
	成澤瑛理子 午前	徳田尚子	徳田尚子	交代制 午前・予約	成澤瑛理子 第2, 4週午前
		成澤瑛理子 午後			
心臓血管外科	<手術日>	交代制 午後	<手術日>	小谷野哲也 午前 羽鳥恭平 午後	茂原淳 午前
呼吸器外科	<手術日>	伊部崇史 高坂貴行	<手術日>	伊部崇史 高坂貴行	<手術日>
整形外科	荒 毅	大澤敏久	荒 毅	新井厚	大澤敏久
	信太晃祐	齋藤健一	信太晃祐	遠藤史隆	齋藤健一
	遠藤史隆	書上 韻	一ノ瀬 剛	<手術日>	一ノ瀬 剛
			書上 韻		
形成外科	<手術日>	中村英玄	中村英玄	中村英玄	交代制
脳神経外科	田中志岳	栗原秀行	<手術日>	笹口修男	佐藤晃之
皮膚科		(井上千鶴) 紹介・予約			(内山明彦) 紹介・予約
産婦人科	伊藤郁朗	青木 宏	大枝涼平 午前	(金井眞理) 午前	伊藤郁朗
	永井あや	黒住未央	(小林 梓) 午前	交代制 午前	青木 宏
	黒住未央	井上拓哉			永井あや
眼科	土屋 明 紹介・予約	土屋 明	土屋 明	土屋 明	土屋 明
眼形成眼窩外科	笠井健一郎 <手術日>	笠井健一郎 <手術日>	笠井健一郎	笠井健一郎 <手術日>	笠井健一郎
耳鼻いんこう科	高橋克昌	岡宮智史	<手術日>	高橋克昌	高橋克昌
	岡宮智史				岡宮智史 午前
放射線治療科	永島 潤 紹介・予約	永島 潤 紹介・予約	永島 潤 紹介・予約	永島 潤 紹介・予約	永島 潤 紹介・予約
	堀込瑛介 紹介・予約	堀込瑛介 紹介・予約	堀込瑛介 紹介・予約	堀込瑛介 紹介・予約	堀込瑛介 紹介・予約
歯科口腔外科	柴野正康 紹介・予約	<手術日>	薬師寺 孝 紹介・予約	薬師寺 孝 紹介・予約	<手術日>
			前山恵里 紹介・予約	柴野正康 紹介・予約	
新患外来	薬師寺 孝 紹介・予約		柴野正康 紹介・予約	前山恵里 紹介・予約	
歯科(歯科麻酔) 摂食嚥下・口腔ケア外来	稲川元明 第1, 3, 5週のみ、紹介・予約	稲川元明 紹介・予約	稲川元明 紹介・予約	稲川元明 紹介・予約	稲川元明 紹介・予約
	木村将典 紹介・予約	倉持真理子 紹介・予約	木村将典 紹介・予約	木村将典 紹介・予約	倉持真理子 紹介・予約
	倉持真理子 紹介・予約	(荒井亮・辻野啓一郎) 第2, 4週のみ、紹介・予約	倉持真理子 紹介・予約		

() の医師は非常勤です。

令和4年1月1日現在

3 予約について

当院は「医療機関からの紹介患者事前予約制」をとらせていただいております。

医療機関様にはお手数をおかけしますが、予約の際には「事前予約申込書」に必要事項を記載し、地域医療支援・連携センターへFAXにてご依頼ください。折返しお電話で予約日時の連絡をさせていただきます。

※分娩希望についてはこの限りではありません。

※心臓血管内科は平日8:30~11:00までに紹介状を持参のうえ来院していただきますと当日受診が可能です。

※消化器内科で早めの対応が必要な患者さんは平日11:00~15:00までに紹介状を持参のうえ来院していただければ対応させていただきます。(予定での紹介が可能な患者さんは地域医療支援・連携センターを通しての予約をお願いします。)

4 連絡先

高崎総合医療センター内 地域医療支援・連携センター

医療機関専用ダイヤル: 027-322-5835 《平日 8:30~18:30 / 土曜日 8:30~17:15》

FAX: 027-322-5925 《FAXは24時間受け付けています。お返事は翌営業日になります》

今年もよろしくお願いします

院長閑話

vol.10



病院長 小川 哲史

明けましておめでとうございます。

本年も新型コロナウイルス感染症対策とともに年が明けました。オミクロン株はこれまでの報道によると、強い感染力のわりに重症化するリスクは低いようですが、本年も昨年と同様にワクチン接種を含め、しっかりした感染対策が必要と思われます。

新年にあたり今年の当院の目標ですが、一言で言うと「コロナ禍においても当院の使命である地域の急性期中核病院としての使命を果たす」ことです。特に昨年からの地域連携と救急医療における体制の整備・強化を行っており、昨年一年間の新規紹介患者数、救急車搬送件数、手術件数とも過去最高に近い件数でした。本年もさらに、こまやかで迅速、機能的な地域連携と救急医療を目指したいと思います。また本年は2年に一度の大幅な診療報酬改定があります。日本の医療状況や行政施策を踏まえた上で、「医療の王道を歩みたい」と思います。

具体的な取り組みですが、まず診療体制の整備、医師の確保として、昨年4月の形成外科常勤医の赴任に続き、4月から2名の皮膚科常勤医が赴任されます。また他の診療科の増員もあり、32名の初期研修医を合わせると31診療科、150名ほどの常勤医体制となります。

地域連携では、これまで同様「顔の見える連携」が基本ですが、昨年からの開始したウェブによるセミナーや会議、ハイブリッド形式の講演会を充実させる予定です。さらに十分なセキュリティを確保しながら、ITやSNSによる情報交換、相談支援、情報発信なども検討しています。

また、昨年は「患者・家族の支援」として、駐車料金の減額や患者図書室の設置などを行いました。本年も患者さん目線からの病院改善を行いたいと思います。また、今後「人生100年時代」が到来します。高齢の患者さん等を入院前から退院後まで全人的にサポートするため、患者サポートセンターに4月から常勤医師を配置し、早期に「食べる」「歩く」「認知する」機能の維持、向上に取り組み、合併症の予防や早期回復に繋がりたいと考えています。

本年も昨年同様、高崎市・安中市などの行政や医師会など地域の医療機関と協力し、市民の命と健康を守るため職員一同努力しますので、どうぞよろしくお願いします。

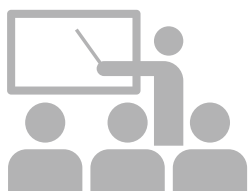
さて、年末年始のスポーツではニューイヤー駅伝や箱根駅伝などが大人気ですが、みなさんは「陸上界のフワちゃん」をご存じですか？拓殖大1年生の不破聖衣来（ふわせいらい）選手です。走るたびに、優勝、区間新、〇人抜き、歴代〇位など、まさに「異次元」のスピードで記録を出していて、その走るフォームは力強く美しい、まさにニューヒロインの誕生です。将来オリンピックなど世界で活躍する選手になる可能性を感じます。その不破選手、なんと高崎生まれ、高崎健大高出身の生粋の高崎人です！今年一番の「推し」です！

(1月6日)

INFORMATION

行事などのお知らせ

お気軽に
ご参加ください



●第2回 高崎総合医療センター 地域連携学術セミナー

『慢性便秘症治療の目標は？
そのためにどうすれば？』

尾高内科・胃腸クリニック院長 尾高 健夫 先生

『当院における
潰瘍性大腸炎治療について』

高崎総合医療センター 消化器内科 増田 智之

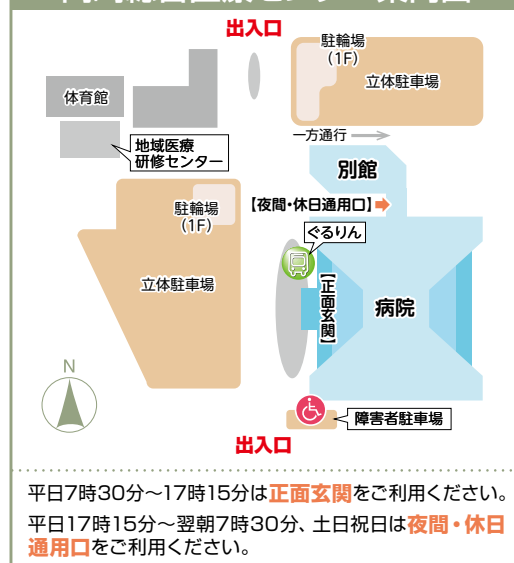
日時：2022年2月16日(水)
19:10～20:15

場所：WEB及び
高崎総合医療センター 別館講堂

対象：医療従事者

※申し込み必要

高崎総合医療センター案内図



編集室より

登録医の先生方からのご寄稿・ご意見をお待ちしております。
地域医療支援・連携センターまでご連絡をお願い致します。

電話 **027-322-5835** (医療機関専用ダイヤル)



独立行政法人・国立病院機構

高崎総合医療センター